

# KPC マネジメントスクール 2016

## 実施要領（詳細）

- 経営戦略コース
- マーケティングコース
- 技術・イノベーションマネジメントコース
- ダイバーシティ・マネジメントコース

<実施期間：2016年7月12日～2017年1月31日>

公益財団法人 関西生産性本部



# 経営戦略コース

## 経営者視点で経営環境の変化を見極め、自ら変革を起こせるビジネスリーダーの育成

### ねらい

経営環境が激しく変化中、既存のビジネスモデルが一瞬にして通用しなくなる時代を迎えている。今日の経営幹部に求められるスキルや能力も日々変化を続け、如何にして時代の変化を的確に捉え、論理的判断に基づく経営戦略・事業戦略を立案・実行するかが企業の明暗を分けると言っても過言ではない。

本コースでは、自社が抱える経営課題に基づくグループ研究を基軸として、ケーススタディ、他企業参加者との喧々諤々の議論、インタビュー調査（企業訪問）を通じて、企業経営に必須となる戦略思考と業界を超えた潮流の変化を習得することにより、経営者視点で経営環境の変化を見極め、自ら変革を起こせるビジネスリーダーを育成する。

### 特長

- 1 第一線で活躍する企業経営者または経験者、および、学識経験者をゲスト講師に迎え、経営幹部として習得すべき理論とともに、経営者ならではの経験談を基に議論を重ねます。
- 2 議論テーマは参加企業が“いま”抱える経営戦略・事業戦略等の課題に基づきます。他社、他業界の幹部・幹部候補生との議論は、まさに“生きたケーススタディ”です。
- 3 経営企画・事業戦略部門のみならず、例年、他部門からもご参加いただくため、多様な職種による幅広い議論が展開されます。

### グループ研究テーマ・インタビュー調査実績

実施年度	研究テーマ	主なインタビュー先（各社の経営幹部、順不同）
2015年度	輝き続ける老舗企業 ～コア・コンピタンスのカ～	鈴鹿サーキット(株)モビリティランド)、(株)パイロットコーポレーション、ひらかたパーク(株)京阪レジャーサービス)、レゴ(株)
	自律性が組織を変える ～悪の組織を目指して～	(株)公文教育研究会、たねやグループ、ネスレ日本(株)
	新規事業を成功させた企業 ～秘訣の探求～	(株)クラレ、東日本旅客鉄道(株)、日立造船(株)
2014年度	従業員満足が経営に与える影響	ザ・リッツカールトン大阪、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)、(株)スーパーホテル、(株)ディスコ、日本マイクロソフト(株)、ブルデンシャル生命保険(株)
	小さな市場で密かに儲ける技 ～ニッチトップ企業の儲けの源泉～	(株)木村技研、日プラ(株)、理研ビタミン(株)
	おもてなしでブランド価値の向上で利益を創出する仕組み	オムロン(株)、(株)加賀屋、ヤマトホールディングス(株)、ワタミ(株)

### 実施要領

- ・会期 2016年7月～2017年1月  
(合宿含む17日間、およびインタビュー調査)
- ・参加費 会員：669,600円 一般：788,400円(税込)/1名  
(消費税込、食費・宿泊費・交通費別途実費要)
- ・対象 経営企画・事業戦略立案能力向上を目指す経営幹部候補
- ・定員 10～15名程度

### コーディネータ



神戸大学 名誉教授  
甲南大学 特別客員教授  
(公財)関西生産性本部理事・総務政策委員会副委員長

加護野 忠男 氏

1947年生まれ。70年神戸大学経営学部卒業。75年同大学博士課程修了、79年助教授、88年教授に就任。98年から2年間経営学部長、2011年より現職、経営学博士。専攻は、経営戦略論、経営組織論。国内のみならず海外有力企業のトップマネジメントプログラムの講師として活躍。著書には「日本企業の多角化戦略」、「競争優位のシステム」、「ゼミナール経営学入門」、「事業システム戦略」等多数。



㈱鳥取銀行 代表取締役頭取

稲垣 滋 氏

1947年生まれ。70年神戸大学経済学部卒業後、同年㈱三和銀行(現三菱東京UFJ銀行)に入行。法入部副部長、95年みどり銀行(現みなと銀行)取締役、98年三和銀行参与等を歴任後、同年鳥取銀行に入行。常務、専務、副頭取等を経て、2005年代表取締役頭取に就任、約5年間に亘りトップとして同行の収益力強化をリードしてきた。信条は「公平公正」「プラス思考」「透明性重視」「行動力重視」。



㈱Kairos 代表取締役

長友 隆司 氏

1953年生まれ。77年早稲田大学教育学部卒業。本田技研工業(株)に入社、人事労務部門でホンダ創造法などの問題解決法や知識創造法等に関する事務局を担当。その後、鈴鹿富士ゼロックス(株)に入社、人事企画・経営企画において中期経営計画の策定、人事制度全般の再構築、企業体質強化に関する全社運動事務局、経営品質向上活動プログラム推進事務局等を担当し、コミュニケーションユニット長を最後に05年に独立、現在に至る。企業・行政組織等の組織革新、経営改革に対する支援活動を行っている。



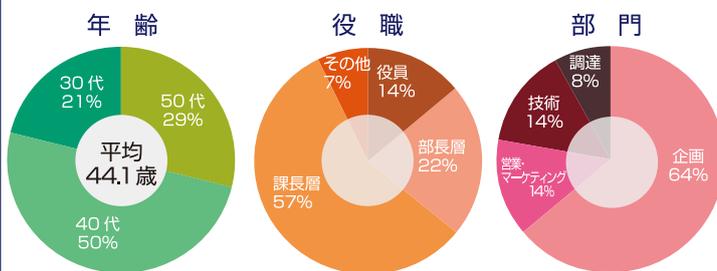
和歌山大学 経済学部教授

吉村 典久 氏

1968年生まれ。91年学習院大学経済学部卒業。94年神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程中途退学。和歌山大学経済学部助手、専任講師、助教授を経て、08年教授、13年より現職。13年度から2年間は経済学部長も務めた。03年度 CassBusiness School, City of London 客員研究員。ガバナンス構造が企業行動・成果に与える影響、社内ベンチャーを通じた戦略展開などをテーマに研究を進めている。著書に「日本の企業統治」、「部長の経営学」、「会社を支配するのは誰か」、訳書に「日本の経営の変革：持続する強みと問題点(監訳)」等がある。

### 参加者データ

(2015年度)



### ■ゲスト①：8/26(金) 人とホスピタリティ研究所代表

(元リッツ・カールトン日本支社長)

高野 登氏

#### 「“サービスを超える瞬間”の実現～ザ・リッツ・カールトンの経営理念と哲学～」

1953年生まれ。74年渡米。ニューヨーク・ホテルキタノ等で勤務後、90年リッツ・カールトンに移籍、サンフランシスコ開業に携わる。91年ロサンゼルス・オフィスに転勤。その間、米国西海岸やシドニー等でホテル開業をサポート。同時にホノルル・オフィスを開設する。94年日本支社に転勤。支社長としてリッツ・カールトンの日本におけるブランディング活動を行う。2010年より現職。



### ■ゲスト②：9/16(金) アレックス(株) 代表取締役社長 兼 CEO

(元グーグル日本法人代表取締役社長)

辻野 晃一郎氏

#### 「クラウド時代の新しい経済モデル～シンギュラリティの時代～」

1957年福岡県生まれ。84年に慶応義塾大学大学院工学研究科修了、ソニー入社。88年にカリフォルニア工科大学大学院電気工学科を修了。VAIO、デジタルTV、ホームビデオ、パーソナルオーディオ等のカンパニープレジデント歴任後、2006年ソニー退社。翌年グーグルに入社し、その後、グーグル日本法人代表取締役社長に就任。10年にグーグルを退社し、アレックス(株)創業し現在に至る。



### ■ゲスト③：10/28(金) テバ製薬(株) CEO 兼 社長

松森 浩士氏

#### 「医薬品産業のパラダイムシフトから学ぶ、 既成概念にとられない新たなビジネスモデル構築」

1982年台糖ファイザー(株)(現ファイザー(株))入社後、2000年開発薬事統括部統括部長、04年米国ファイザー社 La Jolla 研究所出向 Global Regulatory Leader、08年執行役員経営企画統括部長、13年取締役執行役員エスタブリッシュ医薬品事業アジアパシフィック地域戦略担当バイスプレジデント等を歴任し、13年SBIバイオテック(株)代表取締役社長就任。14年松森ファーマコンサルティング代表を経て、16年4月より現職。



### ■ゲスト④：10/28(金) グンゼ(株)・住友精密工業(株)取締役(前尼崎市長) 白井 文氏

#### 「組織を活かすリーダーとは～女性市長としての8年間の経験から～」

全日本空輸(株)入社後、客室乗務員として11年間勤務。退職後は人材育成コンサルタント・専門学校講師として活動する。1993年から尼崎市議会議員を2期務め、2002年12月尼崎市長に就任。全国最年少の女性市長となる。2期務め10年12月退任。11年よりグンゼ(株)社外取締役就任、13年4月より(一財)大阪府男女共同参画推進財団業務執行理事、15年より住友精密工業(株)社外取締役就任。



### ■ゲスト⑤：10/29(土) (株)マサグループ本社 代表取締役社長

浜田 吉司氏

#### 「同族経営から同志経営へ～企業の永続を目指して～」

1963年老舗和菓子メーカー創業家の次男として生まれる。86年慶応義塾大学経済学部卒業後、野村証券投資信託委託(現:野村アセットマネジメント)勤務等を経てマサグループ各社の経営を順次引き継ぐ。94年『おにぎりせんべい』製造・販売の(株)マサ社長に就任。その後、中国合弁事業、介護事業等を起業。2001年から一年間、米カリフォルニア大学デイビス校経営大学院留学。08年から「経営理念に基づく経営」を実践。15年三重大学地域イノベーション学研究所大学院学位(博士)取得。



### ■ゲスト⑥：11/18(金) (株)良品計画 名誉顧問(前代表取締役会長)

松井 忠三氏

#### 「無印良品が選ばれる理由～変革で不況を乗り越える“無印”流経営改革～」

1973年東京教育大学(現 筑波大学)体育学部卒業後、同年(株)西友ストア(現 西友)入社。92年(株)良品計画入社後、93年取締役、97年常務取締役、99年専務取締役を歴任し、2001年代表取締役社長、08年代表取締役会長を経て15年より現職。以前の業績悪化の本因をそれまでの企業風土にあると喝破し、仕組みを含めた大掛かりな経営改革断行により現在の同社の礎を築く。



### ■ゲスト⑦：12/17(土) (株)坂ノ途中 代表取締役

小野 邦彦氏

#### 「100年後の農業を変えたい～21世紀型農業のあり方を世に問う～」

1983年奈良県生まれ。京都大学総合人間学部で文化人類学を専攻。外資系金融機関での「修行期間」を経て、2009年(株)坂ノ途中設立。「未来からの前借り、やめましょう」というメッセージを掲げ、農薬や化学肥料不使用で栽培された農産物の販売や育成機能をもつ自社農場の運営を通して、環境負荷の小さい農業を実践する農業者を支えている。東アフリカでも有機農業の普及に取り組み、13年には現地法人 Saka no Tochu East Africa 設立。



# KPCマネジメントスクール2016 「経営戦略コース」実施要領

## ＜本年度プログラムの特長＞

### 【①「経営学」(実践的講義)と「経営者学」(ライブケーススタディ)】

(1)経営戦略・事業戦略のベースとなる「経営学」理論と、経営幹部に必要とされる「ファイナンス・財務計画・投資戦略」をコーディネータ、および第一線の学識経験者からの実践的講義を通じて習得する。

(2)経営者自らの修羅場経験を通じて学び得た「経営者学」を“ライブケーススタディ”として直伝する。

### 【②「グループ研究」と「インタビュー調査」】

・参加者各自・各社の課題認識をもとにグループを編成、グループメンバーやコーディネータとの議論を通じて見出した課題解決のための「仮説」を立て、企業の経営幹部や実務家へのインタビュー調査を行うことにより「検証」し、自社で実践するための具体策を得る。

### 【③「他社人材との議論」と「人脈形成」】

・「当コース全体での広い議論」と「グループ内での深い議論」を織り交ぜて行うとともに、「合宿例会」「懇親会」を幾度も重ねることにより、将来に繋がる人脈を形成する。

・「他コース参加者」とともに学ぶ合同セッションを通じて、異なる立場の見解を議論に持ち込み、研究内容と自社実践の具体策をさらに有益なものとする。

## スケジュールとプログラム: 全17回(「合宿」4回8日間+「通い」9日間)+インタビュー調査(数日)

回	日時	曜日	午前	午後(前半)	午後(後半)	夜	グループ研究フロー	会場	
1	7月12日	(火)	(PTA会)	開講式,合同セッション①(スクール全体)「経営戦略をつくる」 甲南大学 加護野 忠男氏	「企業経営とは」(株)鳥取銀行 前代表取締役頭取 稲垣滋氏	当コースオリエンテーション・自己紹介	-	N	
2	7月29日	(金)	講義「経営戦略入門」 「ケーススタディ:スカンジナビア航空」 甲南大学 加護野 忠男氏	参加者各自の課題認識発表 「我が社・我が事業部の課題」		懇親会 フリーディスカッション	-	U	
3	7月30日	(土)	講義「経営戦略とは」 和歌山大学 吉村 典久氏	「戦略思考講座」 (株)Kairos 長友 隆司氏			-	U	
4	8月5日	(金)	講義・討議・実践トレーニング 「経営計画と財務計画」 京都大学 砂川 伸幸氏	講義・討議・実践トレーニング 「投資戦略(投資、M&A等の意思決定)」 京都大学 砂川 伸幸氏		懇親会	-	N	
5	8月26日	(金)	ケーススタディ・討議 (株)Kairos 長友 隆司氏	ライブケーススタディ① 人とホスピタリティ 研究所代表(元リッツカールトン日本支社長) 高野 登氏	グループ編成・グループ研究 (研究テーマ検討)	懇親会	グループ編成・仮説の検討・構築	N	
6	9月16日	(金)	グループ研究(仮説の構築)	ライブケーススタディ② アレックス(株)代表取締役社長兼CEO 辻野 晃一郎氏	前年度グループ研究成果発表	懇親会 フリーディスカッション	仮説の検討・構築	U	
7	9月17日	(土)	グループ研究 (仮説の構築・検証)	【中間発表会】	グループ研究(仮説の構築)		仮説の検討・構築	U	
8	9月30日	(金)	グループ研究 (仮説の構築・検証)	コーディネータ講義・討議 「経営学のエッセンス」 和歌山大学 吉村 典久氏	グループ研究(仮説の構築)	懇親会	仮説の検討・相互訪問調整	N	
インタビュー	10月上旬 ～下旬		インタビュー調査(メンバー企業相互訪問)*グループ別活動			(懇親会)	仮説の検証・再構築	外部	
9	10月7日	(金)	合同セッション②(スクール全体) ビデオケース、合同ディスカッション(他コース参加者との議論) 神戸大学 伊藤 宗彦氏他 全コースコーディネータ			全コース合同懇親会	仮説の検証・再構築	N	
10	10月28日	(金)	ライブケーススタディ③ テバ製薬(株) CEO兼社長 松森 浩士氏	グループ研究 (仮説の構築・検証)	ライブケーススタディ④ グンゼ(株)取 締役・住友精密工業(株)前尼 崎市市長) 白井 文氏	講師を囲んで の夕食懇親会, フリーディスカッション	仮説の再構築	U	
11	10月29日	(土)	グループ研究 (仮説の構築・検証)	ライブケーススタディ⑤ (株)マサヤグループ本社 代表取締 役社長 浜田 吉司氏	グループ研究 (仮説の構築・検証)		コーディネータへのイン タビュー希望申告 (第1回)	U	
インタビュー	11月上旬 ～下旬		インタビュー調査(外部)*グループ別活動			(懇親会)	仮説の検証・再構築	外部	
12	11月18日	(金)	グループ研究 (仮説の構築・検証)	ライブケーススタディ⑥ (株)良品計画 名誉顧問 松井 忠三氏	グループ研究 (仮説の構築・検証)	懇親会	コーディネータへのイン タビュー希望申告 (第2回)	N	
インタビュー	12月上旬 ～下旬		インタビュー調査(外部)*グループ別活動			(懇親会)	仮説の検証・再構築	外部	
13	12月16日	(金)	グループ研究 (仮説の構築・検証)	合同セッション③(経営戦略・技 術イノベーションマネジメント) プレ発表①	グループ研究 (仮説の構築・検証)	懇親会	仮説の再構築 ・総括	U	
14	12月17日	(土)	プレ発表②	ライブケーススタディ⑦ (株)坂ノ途中 代表取締役 小野 邦彦氏	グループ研究 (仮説の構築・検証)		仮説の再構築 ・総括	U	
15	1月13日	(金)	グループ研究(まとめ)	プレ発表③	グループ研究(まとめ)	懇親会	仮説の再構築 ・総括	N	
16	1月28日	(土)	グループ研究(発表準備)	当コース「グループ研究成果発表会」(公開)		懇親会	グループ研究発表	N	
17	1月31日	(火)	個人発表「私が自社で行動す べきこと～グループ研究での 学びを通じて～」	閉講式・修了証書授与 各コース代表グループによる発表		懇親パーティ	コース代表による 全体報告	N	
修了後	修了後～ 2月28日		報告書作成、出版						

\*実施時間は原則として「合宿」は1日目10:00～2日目17:00、「通い」は10:00～18:00+懇親会、「10月7日合同②」は9:30～20:00(懇親会含)です。  
\*会場は主に(公財)関西生産性本部会議室、クロスウェーブ梅田(宿泊型研修施設)の予定です。(N:中之島センタービル内 U:クロスウェーブ梅田)  
\*上記スケジュールは事情により一部変更になる場合があります。

# K P C マネジメントスクール 2016 「マーケティングコース」実施要領

## 【「マーケティングコース」スケジュールとプログラム】

全 18 回(「合宿」2 回 4 日間+「通い」14 日間) + インタビュー調査(数日)

回数・日程・会場	午前	午後	夜間
①7月12日(火) NCB スカイルーム	(PTA会)	開講式、全コース合同セッション① 「経営戦略と戦術」 コースオリエンテーション	懇親 パーティ
②7月29日(金) 関西生産性本部	ユニットⅠ 理論講義① 「マーケティング・マネジメントの基本」 コーディネータによる講義と相互意見交換	ユニットⅠ 理論講義② 「稼ぐ力を高めるマーケティング」 ユニットⅠ ケーススタディ① 「レッグス」 ユニットⅠ コーディネータによる確認面談	(続き) 懇親会 (泊)
③7月30日(土) 関西生産性本部	ユニットⅠ 理論講義② 「顧客志向の重要性と市場の観方」 ユニットⅠ 演習① 「気づきシートでアイデアを練り上げる」	ユニットⅠ ケーススタディ② 「キットカット」 ユニットⅠ 理論講義③ 「ブランドマネジメント」	
④8月9日(火) 関西生産性本部	ユニットⅠ 理論講義④ 「プロモーション」	ユニットⅠ ライブケーススタディ① ゲスト講師：ライフネット生命保険(株)マーケ ティング部部长 岩田慎一氏	懇親会
⑤8月22日(月) 関西生産性本部	ユニットⅠ 理論講義⑤ 「グローバル・ブランディング」	ユニットⅠ ライブケーススタディ② ゲスト講師：キャノン(株) イメージコミュニ ケーション事業本部 ICP 第二事業部 中期事業戦略担当主席 笠松厚雄氏	懇親会
⑥8月30日(火) 関西生産性本部	ユニットⅠ 実践理論講義「事業の高収益化」 ゲスト講師：コンセプトシナジー(株)代表取締 役高杉康成氏 (元キーエンス)	ユニットⅠ 実践理論討議「事業の高収益化」 ゲスト講師：コンセプトシナジー(株)代表取締 役高杉康成氏 (元キーエンス)	懇親会
⑦9月16日(金) 関西生産性本部	ユニットⅠ ケーススタディ③ 「広告・プロモーションのマネジメント ～リーダーシップを磨く」	ユニットⅠ 個人発表① 「気づきシートを活用した自社新規事業提案」 ユニットⅠ グループ研究へ向けて 「課題整理と研究の進め方」	(続き) 懇親会 (泊)
⑧9月17日(土) 関西生産性本部	ユニットⅡ グループ研究① 「グループ編成」	ユニットⅡ グループ研究② 「リサーチデザインの検討」	
⑨9月27日(火) 関西生産性本部	ユニットⅡ グループ研究③ 「リサーチデザインの検討」	ユニットⅡ グループ研究④ 「テーマに基づく理論体系の学習」	
⑩10月4日(火) 関西生産性本部	ユニットⅡ グループ研究⑤ 「文献調査と分析」	ユニットⅡ グループ研究⑥ 「リサーチデザインの発表」	懇親会
⑪10月7日(金) NCB スカイルーム	全コース合同セッション②「他コース参加者との意見交換」 異職種混合チームでのビデオケーススタディ・討議 グループ研究について、他コース参加者と意見交換		全コース 合同 懇親会
⑫10月18日(火) 関西生産性本部 又は企業訪問(現地)	ユニットⅡ グループ研究⑦ 「フィールド調査と分析」 企業インタビュー調査	ユニットⅡ グループ研究⑧ 「フィールド調査と分析」 企業インタビュー調査	
※予備日：10月中旬～11月中旬の間で企業インタビュー調査 企業訪問(現地)			
⑬11月8日(火) 関西生産性本部 又は企業訪問(現地)	ユニットⅡ グループ研究⑨ 「フィールド調査と分析」 企業インタビュー調査	ユニットⅡ グループ研究⑩ 「フィールド調査と分析」 企業インタビュー調査	
⑭11月29日(火) 関西生産性本部	ユニットⅡ グループ研究⑪ 「調査、分析結果の検討と総括」	ユニットⅡ グループ研究⑫ 「調査、分析結果の検討と総括」	
⑮12月13日(火) 関西生産性本部	ユニットⅡ グループ研究⑬ 「調査、分析結果の検討と総括」	ユニットⅡ 演習② 「グローバルマーケティング討議」	懇親会
⑯1月13日(金) 関西生産性本部	ユニットⅡ グループ研究⑭ 「自社、自分にとっての意義」	ユニットⅡ グループ研究⑮ 「自社、自分にとっての意義」	
⑰1月24日(火) 関西生産性本部	ユニットⅡ グループ研究⑯ 「グループ研究成果発表準備」	ユニットⅡ グループ研究⑰ 「グループ研究成果発表」 ※PTAおよび当本部「営業・マーケティング研究会」会員、当コース修了生に公開 ユニットⅡ 個人発表② 「グループ研究の自社、自分にとっての意義」	懇親会
⑱1月31日(火) NCB スカイルーム		「閉講式」修了証書授与、各コース代表グルー プによる発表	懇親 パーティ

\*実施時間は原則として、「合宿」は1日目10:00～2日目17:30、「通い」は10:00～17:30(+懇親会)、「10月7日合同②」は9:30～20:00(懇親会舎)です。

## ☆カリキュラム概要

研修効果を最大化するべく、当コースでは約半年間に亘るプログラムを、ユニットⅠ・ユニットⅡに分け、それぞれのユニットで獲得・進化するべきことを明確にするとともに、**節目でコーディネータによる面談確認を行い**、プログラムを運営している。

### ユニットⅠ：知識の高度化を導くプログラム

#### コース前半7日間（①7月12日～⑦9月16日）

当コースが定義するマーケティング（顧客創造）のベースとなる理論を、コーディネータによる「理論講義」と特徴的な企業の「ケーススタディ」を通じて確認・理解する。特に、「ライブケーススタディ」では、現場に根ざし**実務に直結する**マーケティング理論を考察するべく、成功企業のプロジェクト・リーダーの方を招聘し、具体的な実体験をお聴きすることで、その戦略の本質と実践のためのエッセンスを学ぶ。

### ユニットⅡ：分析力と思考力の進化を促すプログラム

#### コース後半11日間（⑧9月17日～⑱1月31日）

ユニットⅠ最終日に行う個人発表「自社の新規事業提案」における各人の課題認識や方法論をもとに、底流が同じ4・5名でグループを編成する。グループ毎に研究テーマを選定し、今後の自社のマーケティング（顧客創造）に貢献し得る課題を抽出する。グループメンバーや担任コーディネータとの議論を通じて、解決の為の仮説を設定する。その仮説を、実際の企業の経営幹部や実務家との意見交換やヒアリングを通して検証し、**具体的な自社実務への適用方法を見出す**。

## ☆ 実務に生きる「発表」と「研究」を志向

「大変だったけれども、研究、準備を通して力が付いたと思う」とこれまでの修了生から評される『発表』。当コースでは、節目となるユニットⅠ・ユニットⅡの最終日（⑦9月16日・⑱1月24日）に発表機会を設けている。本年度は「**自社新規事業**」・「**グループ研究成果**」・「**グループ研究成果の自社、自分への意義**」をそれぞれ検討し、提案、発表を行う。

特に本年度は、ユニットⅠ最終日の「**自社新規事業**」提案をもとに「課題認識が近い」「コラボレーションできる可能性が有る」等々の観点から、ユニットⅡで共に研究活動を実践するグループメンバーを編成することで、**自社事業とグループ研究の距離感を更に縮める**。

従来比2日増としたユニットⅡの「グループ研究」では、「研究成果が、自社、自分にとって何の意義があるのか」について考察する時間を創出することで、**実務に生きる発表と研究**を志向する。

## 【「マーケティングコース」ライブケーススタディ・実践理論講義と討議 詳細】

8月9日(火) ライフネット生命保険(株)マーケティング部長

岩田 慎一 氏

【ライブケーススタディ①】「ライフネット生命のマーケティング戦略」

8月22日(月)キヤノン株式会社 イメージコミュニケーション事業本部

ICP 第二事業部 中期事業戦略担当主席 笠松 厚雄 氏

【ライブケーススタディ②】「EOS Kiss のグローバル・ブランディング」

8月30日(月) コンセプト・シナジー(株) 代表取締役

高杉 康成 氏

【実践理論講義と討議】「事業の高収益化」

1993年にキーエンスに営業担当として入社、独自の営業スタイルで全国ランキング表彰、有効情報大賞などを受ける。新商品開発プロジェクトにおいては、液晶業界向け新商品の企画立案・発売に成功し、世界の液晶メーカーにおけるデファクトスタンダード商品（業界標準の規格・製品）となった。2002年に同社を退社、コンサルタントとして独立。現在、価値づくりの専門家として、新規事業や新商品の企画・開発、高収益を生み出す仕組みづくり、営業力強化を中心とした企業の収益力改善を指導している。高収益を生み出すためには、利益率の高い商品・サービスを出し続けることが必要であり、そのためには、顧客ニーズを軸にした商品開発体制が必要とする同氏。高付加価値ビジネスをつくるために欠かせない視点・手法・考え方について解説いただく。

\* 日程・テーマ表現・講演者は一部調整中のため、事情により変更となる場合があります。

KPC マネジメントスクール 2016  
「技術・イノベーションマネジメントコース」実施要領

**【「技術・イノベーションマネジメントコース」スケジュールとプログラム】**

全 20 回(「合宿」8 回 16 日間+「通い」4 日間) + インタビュー調査(数日)

回	日時	曜日	午前	午後	夜	グループ研究フォー
1	7月12日	(火)	(PTA会)	開講式、全コース合同セッション①共通講義 コースオリエンテーション・自己紹介	[前年度研究成果 発表]	-
2	7月15日	(金)	[問題意識の交換]	[講義&討議: テクノロジーマネジメントの実際]	[講義: 仮説検証の 方法]・懇親会	-
3	7月16日	(土)	[講義&討議: 人材マネジメント]	[講義&討議: 技術・製品戦略] [グループ編成・グループ研究の進め方]		-
4	7月29日	(金)	[ライブケーススタディ: 新事業・新商品開発とリーダー] タタ電線(株)特別顧問 橋本和博氏 (同社テクニカルセンターにて講演・工場見学)		[グループ編成]	グループ編成・仮 説の検討・構築
5	7月30日	(土)	[講義&討議: 開発プロセスマ ネジメント]	[グループ研究] 問題意識の共有、研究テ ーマ検討、初期仮説の構築・検討		
6	8月26日	(金)	[グループ研究] 初期仮説の構築・検討	[ライブケーススタディ: 新事業・新商品開発とイ ンバナー] 日本ゼン(株)特別経営技監 荒川公平氏	初期仮説の構築・ 検討・懇親会	仮説の 検討・構築
7	8月27日	(土)	[グループ研究] 初期仮説の構築	[グループ研究] 初期仮説の構築		
8	9月16日	(金)	[グループ研究] 初期仮説の構築・検討	[コース0Bによるケース紹介] [コース0Bとの仮説問答]	[コース0Bを囲む 夕食懇談会]	
9	9月17日	(土)	[グループ研究] 初期仮説の構築	[グループ研究] 初期仮説の構築		
10	10月7日	(金)	全コース合同セッション② ビデオケース、合同ディスカッション (他コース参加者との議論) 神戸大学 伊藤 宗彦氏他 全コースコーディネータ		全コース合同懇親会	仮説の 検証・再構築
11	10月21日	(金)	[グループ研究] グループワーク	[ライブケーススタディ: 新事業を創造する基盤研 究] サントリーウエルネス(株)常務取締役健 康科学センター長 柴田浩志氏	懇親会 (サントリーワ ールドリサーチセンター内)	
12	10月22日	(土)	[グループ研究] グループワーク	[グループ研究] グループワーク		
	10月下旬~ 11月上旬		インタビュー調査			
13	11月18日	(金)	[グループ研究] グループワーク	[グループ研究] グループワーク	[グループ研究] グループワーク	
14	11月19日	(土)	[グループ研究] グループワーク	[グループ研究] グループワーク		
	11月中旬~ 12月上旬		インタビュー調査			
15	12月16日	(金)	[グループ研究] グループワーク	合同セッション③(経営・技術) 合同発表・討論会	[グループ研究] グループワーク	仮説の 再構築・総括
16	12月17日	(土)	[グループ研究] グループワーク	[グループ研究] グループワーク		
17	1月13日	(金)	[グループ研究] グループワーク	[グループ研究] グループワーク	[グループ研究] グループワーク	
18	1月14日	(土)	[グループ研究] グループワーク	[グループ研究] グループワーク		
19	1月21日	(土)	[研究成果の実践決意表明]	[グループ研究成果発表会] (公開)	懇親会 フリートalkセッション	グループ研究 発表
20	1月31日	(火)		[閉講式・修了証書授与] 各コース代表グループによる発表	懇親パーティ	コース代表による 全体報告
	修了後~2 月末		報告書作成、出版			

\*会場は主に(公財)関西生産性本部会議室、大阪市内の宿泊型研修施設を予定しています。

\*実施時間は原則として「合宿」は1日目 09:20~2日目 17:00、「通い」は 10:00~18:00+懇親会、「10月7日合同②」は 9:30~20:00(懇親会含)です。

## <本年度プログラムの特長>

### 【①】「実践的な MOT (技術経営) 講義」と「実務家による実践例」(ライブケーススタディ)

(1)単に体系的にまとめられた MOT(技術経営)の理論を学ぶのではなく、企業の現場で生きる「技術・イノベーション」のマネジメント力に必要な知識をコーディネータ・第一線の学識経験者からの講義とディスカッションを通じて習得する。

(2)技術・イノベーションにより成長を遂げている企業の実務家による事例紹介(ライブケーススタディ)を通じて具体的な取り組みのあり方を考える。

≪主な講義・ライブケーススタディのテーマ≫

・テクノロジーマネジメントの意義・構造、オープンイノベーション、コア技術戦略からピボット戦略へ、製造業におけるサービサイゼーション、商品開発プロセスと事業システムおよび組織間の関係、コンカレント型開発と IT 活用、アンゾフ・マトリクス、新規事業創出、事業ドメインと 3 C

### 【②】「グループ研究」と「インタビュー調査」

・参加者各自・各社の課題認識をもとにグループを編成し、グループメンバーやコーディネータとの議論を通じて技術・イノベーションの成功事例を読み解き、成功を獲得するための仮説を自ら立て、それを成し遂げた企業の経営幹部や実務家本人へのインタビュー調査を行うことにより検証する。自らの言葉で検証して直接当事者の話を聞くことにより、知識だけでなく行動への内発的な動因も生む実効性の高い学びを得る。

### 【③】「他社人材との議論」と「人脈形成」

・全体議論とグループ議論を「合宿例会」「懇親会」を通じて幾度も重ねることにより、将来に繋がる人脈を形成する。

・「他コース参加者」とともに学ぶ合同セッションを通じて、異なる立場の見解を議論に持ち込み、研究内容と自社実践の具体策に磨きをかける。

## 【「技術・イノベーションマネジメントコース」ライブケーススタディ】

### ■ 7月29日(金) タツタ電線(株)特別顧問

橋本 和博 氏

東大阪に本社を構える総合電線メーカーのタツタ電線。電線・ケーブル事業を基盤に発展してきた同社の収益の柱の一つを新事業分野である電子材料事業が担い、スマートフォンなどに使われる電磁波シールドフィルムで高い市場占有率を有しています。同社の電子材料事業を長く率いた経験をお持ちの橋本氏より、本業で培った技術やノウハウの昇華・融合が電子材料事業に結びついた経緯や、製造業のあり方、新事業開発とそれを担う人材の要諦などについてご紹介いただくとともに、同社テクニカルセンターおよび機能性フィルム工場を見学いたします。

### ■ 8月26日(金) ゼオンナノテクノロジー(株)代表取締役社長

日本ゼオン(株)特別経営技監

荒川 公平 氏

#### 「日本ゼオンにおける新事業・新製品開発とイノベーターの育成」

十分なリソースを有しているはずの大企業において新製品やイノベーションが生まれにくいという現実には、単に技術者・研究者の資質の問題ではなく、企業の組織のあり方や組織文化が強く影響していると考えられます。日機装、富士フィルム、日本ゼオンとこれまでに所属された企業それぞれで、それまでの業界の常識を覆す生産技術の革新を起して新技術・新商品の開発に成功し、企業毎の代表的な技術・製品に成長させた経験をお持ちの荒川氏に講話いただき、いま企業と人のなにかが問題なのかについて、リーダーシップ、組織活性化、開発思想と開発手法などに広くスポットをあて、常識に囚われない発想法を身に付けることの重要性、大企業の中でベンチャー的に新規事業を生み出すためのイノベーター人材について考えます。

### ■ 10月21日(金) サントリーウエルネス(株)常務取締役 健康科学センター長

柴田 浩志 氏

#### 「サントリーの新事業を創造する基盤研究」

お酒や清涼飲料、健康食品、さらには花と、多岐にわたる商品を手がけるサントリー。それらの商品の基盤となるポリフェノールの研究に同社が本格的に取り組むようになったのは1987年のこと。研究開発から21世紀のサントリーを切り開く新たな事業を創造すべく、基礎研究所が立ち上げられました。まさに「やってみなはれ」の精神で、サントリーに新しい風を吹き込もうとした取り組みはサイエンスの蓄積を生み、次々と新たな研究につながって独自の強みとなり、健康食品など新しい事業の創造に結実しています。「サントリーらしく、かつ事業拡大につながる研究はなにか」を常に追求する同社の取り組みに学びます。

\*日程・テーマ表現・講演者は一部調整中のため、事情により変更となる場合があります。

# KPCマネジメントスクール2016

## 「ダイバーシティ・マネジメントコース **新コース**」実施要領

### 開講のねらい

本コースでは、ダイバーシティ・マネジメントの目的を、経営戦略の実現や生産性の向上、企業価値の創造といった経営への貢献と捉え、女性の活躍という狭い意味だけではなく、価値観や考え方など広い意味でのダイバーシティを活かし、新たな価値を創造するための仕組み、仕掛けの出来る人材を育成し、派遣企業の経営に資することを目的とします。

#### 本コースにおけるダイバーシティ・マネジメントの視点

本コースでは、ダイバーシティ・マネジメントを推進するにあたり、以下の3つの視点を中心に、議論を深めます。



#### 本コースにおけるダイバーシティ



本コースでは、「表層のダイバーシティ」だけでなく、「深層のダイバーシティ」を活かし、企業経営に結びつけることを、「ダイバーシティ・マネジメント」の目的としています。

### 本コースの特長

#### 1 全9回の短期コース

ダイバーシティ・マネジメントを切り口にして、「職場マネジメント」「組織開発」「キャリア開発」を俯瞰し、必要な知識の習得と議論を行う。KPCマネジメントスクールの特徴である“仮説検証方式”のグループ研究やインタビュー調査も実施。

#### 2 経営の視点で考える

ダイバーシティ・マネジメントの目的を、経営に資することと位置づけ、そのための働きかけについて学び、議論する。従って、ダイバーシティ・マネジメントの深化は、究極的には「良い経営」「良い人材マネジメント」の追求でもある。

#### 3 東京との交流・ネットワーク

実際にダイバーシティ・マネジメントを推進していく際、社内外のネットワークが、推進者の大きな支えとなる。本コースでは、コース内だけでなく、日本生産性本部主催の「経営アカデミー人材マネジメントコース」との合同研修（国内）を行い、幅広い人脈形成と視野の拡大につなげる。

### 参加対象

人事部門・経営企画部門・ダイバーシティ推進室・女性活躍推進室等において、ダイバーシティ・マネジメントや女性活躍推進を担当するミドルマネージャーとその候補の方。（定員 10名～15名程度）

### 特別ゲスト

中央大学大学院 戦略経営研究科 教授

ワーク・ライフ・バランス&多様性推進・研究プロジェクト プロジェクト代表

日本アイ・ビー・エム株式会社 人事ダイバーシティ&人事広報担当部長

ネスレ日本株式会社 人材・組織開発部部長

富士通株式会社 ダイバーシティ推進室 室長

佐藤博樹氏

梅田恵氏

金成和喜氏

塩野典子氏

### コーディネータ

甲南大学 経営学部 教授

北居 明氏



1967年生まれ。1990年滋賀大学経済学部卒業。1995年神戸大学大学院経営学研究科後期博士課程修了。博士（経営学）。大阪学院大学経営科学部講師、同助教授、大阪府立大学経済学部助教授、同教授を経て、2015年度より現職。主な著書に、「学習を促す組織文化ーマルチレベル・アプローチによる実証分析ー」（有斐閣）、「健康いきいき職場づくりー現場発組織変革のすすめー」（生産性出版）。日本企業の組織文化ならびに対話型組織開発について研究を行っている。

神戸大学大学院 経営学研究科 教授

鈴木 竜太氏



1971年生まれ。94年神戸大学経営学部卒業。99年神戸大学大学院経営学研究科博士過程修了。博士（経営学）。静岡県立大学助手、専任講師を経て、05年神戸大学大学院経営学研究科助教授。13年より現職。専攻は経営組織論、組織行動論、経営管理論、キャリア論。職場のマネジメントや組織と個人の関係に関する研究を中心に研究を進めている。著書に「組織と個人」「自律する組織人」「関わりあう職場のマネジメント」等がある。

(株)Y's オーダー 代表取締役

藤野 祐美氏



大阪府出身。BOND大学大学院（オーストラリア）MBA。ミノルタ株式会社（現コニカミノルタ株式会社）にて、商品販売企画・販売支援に従事した後、プロクター・アンド・ギャンブル・ファー・イースト・インク社において国際人事業務に従事。その後、オランダ資本企業ニュートレコ社（世界最大の養殖魚飼料会社）の日本本社立ち上げに参画。さらに関連会社2社を立ち上げ、取締役就任。アジア太平洋地域人事統括として人事戦略構築から実践、人材育成に至るまで人事業務全般を担当した後、独立。現在はコンサルタントとして活躍中。

## 開催スケジュール

回数・月日	内 容	回数・月日	内 容
①7/12(火)	開講式(全コース合同) 学長講話(石井 淳蔵 氏) 経営戦略概論(加護野 忠男 氏) (コースのみ)参加者・コーディネータ自己紹介、 参加者の問題意識共有	⑤9/23(金)	ライブケース② (ゲスト)ネスレ日本(株) 人材・組織開発部部长 金成 和喜 氏 グループ研究② … ゲストへのインタビュー、 意見交換、研究計画 (インタビュー候補の提出)
②7/28(木)	(講義)ダイバーシティ・マネジメントの基礎 中央大学大学院 戦略経営研究科 教授 ワーク・ライフ・バランス&多様性 推進・研究プロジェクト プロジェクト代表 佐藤 博樹 氏	⑥10/7(金)	スクール全体合同セッション ビデオケースを用いたディスカッション 他コース研究テーマに関する討議
③8/5(金)～ 8/6(土) (合宿例会)	組織開発ワークショップ(AI=アプリシエ ティブ・インクワイアリー) 対話型組織開発の手法を活用し、メンバー 自らが、研究グループ・研究テーマと“問 い”・研究スケジュール・修了後の姿まで を描く	⑦10/26(水)	ライブケース③ (ゲスト)富士通(株) ダイバーシティ推進室 室長 塩野 典子 氏 グループ研究③ … ゲストへのインタビュー、 意見交換、インタビュー 結果のまとめと報告内容の 調整
④8/31(水)	ライブケース① (ゲスト)日本アイ・ビー・エム(株) 人事ダイバーシティ&人事広報担当部長 梅田 恵 氏 グループ研究① … 仮説の設定	⑧12/7(水)	グループ研究④ … 最終まとめ コース内発表会
(特別例会) 9/8(木)～ 9/9(金)	経営アカデミー・人材マネジメントコースとの 合同研修(東京) ※合同ワークショップ、企業訪問等を実施	(特別例会) 12/22(木)	当本部 人事労務研究会・人材開発研究会(いづ れも特別例会)における研究成果発表
		⑨1/31(火)	(午前)参加者による決意表明 コーディネータによる総括 (午後)閉講式 … 代表グループによる発表、 修了証の授与

(上記スケジュールとは別にグループ研究に関するインタビュー調査を実施・9～11月)

## 特別講師



中央大学大学院 戦略経営研究科 教授

ワーク・ライフ・バランス&多様性推進・研究プロジェクト プロジェクト代表

佐藤 博樹 氏

1953年東京生まれ。81年一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。同年雇用職業総合研究所(現、労働政策研究・研修機構)研究員、83年法政大学大原社会問題研究所助教授、87年法政大学経営学部助教授、91年法政大学経営学部教授、96年東京大学社会科学研究所教授を経て、2014年より現職。人事管理論を専門とし、特に、ダイバーシティ・マネジメント、WLB支援、女性活躍支援、人材サービス産業、多様な人材活用などに関心を持つ。主著に、『職場のワーク・ライフ・バランス(共著)』(2010年日経文庫)、『男性の育児休業(共著)』(2004年中公新書)、『ワーク・ライフ・バランス支援の課題：人材多様化時代における企業の対応(共編著)』(2014年東京大学出版会)など多数。また、内閣府・男女共同参画会議議員、内閣府・ワーク・ライフ・バランス推進官民トップ会議委員、経産省・新ダイバーシティ企業100選運営委員会委員長、厚生労働省・イクメン・プロジェクト顧問、ワーク・ライフ・バランス&多様性推進研究プロジェクト代表など公職多数。

## 特別ゲスト(ライブケース)

日本アイ・ビー・エム株式会社  
人事ダイバーシティ&人事広報担当部長  
梅田 恵 氏

グローバルにビジネスを展開する同社のダイバーシティへの取り組みは、1899年まで遡る事が出来る。現在においても同社は、ダイバーシティ分野での先駆けになるべく、世界で一貫した考えのもと、様々な施策を展開している。日本では、「女性のさらなる活躍支援」として、1998年から社長直属の諮問委員会「ジャパン・ウイメンズ・カウンシル」を組織し活動を行うほか、「子育て応援への取り組み」や、「ワーク/ライフ・バランス」の推進などを積極的に行っている。また障がい者雇用に関しては、1950年代初頭から雇用を行い、2004年からはLGBT当事者に対する取り組みも行うなど、いずれも他社に先駆けて様々な取り組みを行っている。

これらの背景にあるのは、「思想、文化、人種、性別や出身地などさまざまな違いを持つ人材の多様性(ワークフォース・ダイバーシティ)」を、市場競争における同社の強みの源泉として位置づける基本理念であり、その理念に基づき、今も様々な新しい活動が展開されている。

ネスレ日本株式会社  
人材・組織開発部部长

金成 和喜 氏

同社では、ダイバーシティを、「社員一人ひとりを持つさまざまな違いを受容し、それらを価値として活かすことで、人材の多様性を企業の競争力の原動力にしよう」という考え方で捉え、その推進を成長戦略の一つとして位置づけている。すなわち、性別、国籍、年齢、障がいの有無、ダイバーシティの実現した組織こそが新しい発想やイノベーションを生むという考え方である。

特に日本においては、ジェンダーバランス(男女のバランス)の改善を最優先とし、意欲ある女性を積極的に登用するための社員育成システム(PDG)の構築や、女性限定のコミュニティの整備、本社内の託児スペース設置など、様々な活動を行っている。

さらに今年は、採用に関して「ダイバーシティ採用コース」を設け、プロスポーツ選手をはじめ、様々な専門分野において活躍中の方を採用し、そうした方々が培ってきたリーダーシップや起業家精神、専門的な能力や知識などの活用と、ビジネスや組織の活性化を目指している。

富士通株式会社  
ダイバーシティ推進室 室長

塩野 典子 氏

同社では、FUJITSU Wayの企業指針に基づき、2008年にダイバーシティ推進室を設置、「個人の成長・やりがいの向上」と「企業の競争力強化・成長」の2点を目指す姿として掲げている。毎年実施している調査結果を踏まえ、「組織の風土改革」「個人の活躍支援」「働き方改革」について、様々な活動を行っている。

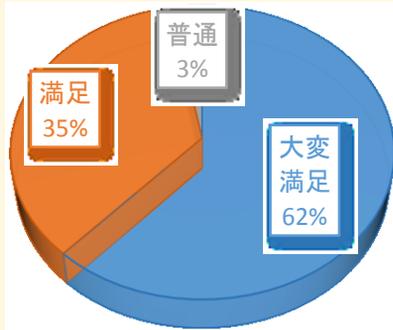
推進室の設置当初は、ダイバーシティ推進の土壌づくりを目的に、「認知・理解」の醸成に向けた施策に取組み、2011年度以降は、ステージを「理解・実践」に移し、「職場でのダイバーシティ推進」「女性社員のさらなる活躍支援」「国内グループ会社への展開」を重点施策として実施した。女性の活躍支援については、2011年度に目標値を設定し、女性社員を対象とした選抜研修等に取組み始めた。さらに2014年度からは、「実践・ビジネス貢献」のステージへ移行し、「多様性をイノベーションへ」を目指し、それまでの活動に加え、「イノベーション創出に向けた職場でのダイバーシティ推進」「多様なリーダー輩出に向けた若年時からの継続的なタレントマネジメントの拡充」「国内外グループ会社への展開」に重点的に取り組んでいる。

# 前年度当スクールの評価

(参加者・参加派遣者アンケート集計)

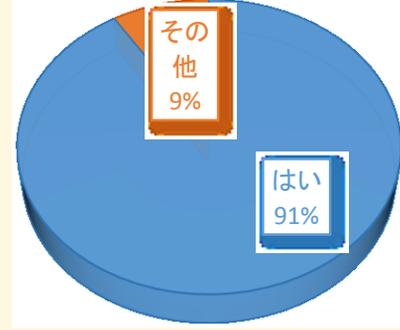
## ■参加者アンケート

Q. 本スクールに参加して、全体の印象はいかがでしたか。



\*「不満」「大変不満」とする回答はありませんでした。

Q. 次年度の本スクールへの参加を会社や同僚などにお勧めいただけますか。



\*「いいえ」とする回答はありませんでした。  
\*「その他」理由は「本社・人事が判断する」等です。

## ◆他流試合・人脈形成について

- ・ 他社との交流・研究を通じて改めて自社を客観的に見直すことができた。(経)
- ・ 一番満足している点は、研修メンバー、企業訪問、講師・コーディネータの方々など様々な人と交流ができたこと。色々な方と接することで自分の視野が広がった。(経)
- ・ 同世代で利害関係のない他社の方と、深く、色々とお話したことが一番良かった。(マ)
- ・ 関西近隣の他企業の優秀な若手の方と知り合いになれた。(マ)
- ・ 社内では体験できない「他流試合」を通じて、もっと勉強したいと思えるようになった。(技)

## ◆カリキュラムについて

- ・ 「経営学」と「経営者学」の理論を基本から学べたとともに実践に活かせる内容が非常に多かった。(経)
- ・ インプットからグループ研究、グループ研究期間中の他コースとの合同セッションなど、コースの構成も良かった。(経)
- ・ 企業経営者の方の講義は、実践的でこれから大変役に立つものだった。(経)
- ・ インプットだけでなく、アウトプットに重点を置いた実践的なカリキュラムだった。(マ)
- ・ 自分の考えの浅さや表現の下手さを痛感することができた点が良かった。(マ)
- ・ メンバーとの議論を通して、企業活動そのものに関する見識を深めることができた。(マ)
- ・ 視野が狭くなりがちな日常から視点を高く視野を広げることに繋がり物事の見方が変わった。(技)
- ・ 自ら考えるテーマ設定、企業へのインタビュー調査に満足できた。(技)
- ・ コースに参加したことで、改めて商品開発においての重要な点を再認識できた。(技)

\* (経): 経営戦略コース (マ) マーケティングコース (技) 技術・イノベーションマネジメントコース

## ◆講師・インタビュー調査(企業訪問)について

- ・ゲスト講師の方々が素晴らしかった。(経)
- ・営業目的ではない企業訪問ができること自体が、常に良かった。上級マネージャー、経営トップ層とお話できる機会はなかなかない。(経)
- ・研修名目での他企業訪問・インタビューでは普通には聞けないような話が伺えた。(マ)
- ・イノベーター本人にインタビューできたことで多くの気づきが得られた。視野が広がり、自身と自社の課題が見えた。(技)

## ■派遣者アンケート(人事部門・上司等)

### ◆他流試合・人脈形成について

- ・自己研鑽に役立ち、他のメンバーとの交わりが本人にとってかなり有意義である。前向きに一生懸命に取り組んでおり、人事から見ても派遣してよかったと感じている。
- ・通常業務では接する機会があまりない幅広い業種の同世代の方々と忌憚のない意見交換ができる。
- ・参加者各人のポテンシャルが高い。また研究・勉強が進めば進むほど、時間外であっても自ら積極的にグループワークに取り組んでいた。
- ・グループ内、社内では経験出来ない貴重な経験となっている。何よりも、他企業メンバーとのディスカッションは、それぞれの会社の考え方も解り、非常に新鮮である。
- ・各社とも参加されている方が優秀で、良い刺激を受けていた。

### ◆カリキュラムについて

- ・各業界で成功しているトップの方々の講演では経営者としての考えや経営事例を知ることができ、管理職としての役割の認識と意識の向上、また今後の自社戦略へ応用できると思う。当初の目的に沿った成果が出始めている。
- ・各講師の講義や各企業経営者のイノベーションの観点からのプレゼンテーションなどから、多くの気付きや刺激を受けており、非常に有意義である。
- ・全体を通して、より広い視点、より高い視点で考えるということが身につく。
- ・この研修に参加することによって、日頃会えない方に会うことができる。
- ・少人数のグループでありながら、内容の濃いレポートになっている。
- ・参加者の視点が高くなっていることを実感できた。
- ・いずれの発表も示唆に富んだ内容だった。今後も部下を派遣させたい。
- ・今後も次世代リーダー育成施策として検討している。

# 公益財団法人 関西生産性本部

〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27

中之島センタービル28階

TEL:06-6444-6464 FAX:06-6444-6450

<http://www.kpcnet.or.jp>

